

平成24年度事業を振り返って

中澤 靖夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長



平成23年3月11日に発生した東日本大震災に対する取り組みを継続して実施し、福島第一原子力発電所内にある診療所に48時間交代で診療放射線技師を派遣した。被災者健康支援連絡協議会に参加し、厚生労働省・内閣府・総務省・文科省・日本医師会・日本看護協会・各種医療関係団体と連携しながら、被災された方々に対する支援を行っている。また福島第一原子力発電所の事故に伴い、放射線に被ばくしたのではないかと不安に思っている地域住民に対するスクリーニング活動・ご遺体のサーベイ活動・被ばく相談活動・診療所活動の取り組みを、秋篠宮殿下・妃殿下に拝謁し報告を行った。

第6回JART・JSRT公開合同学術セミナー「チーム医療の推進とメディカルスタッフの役割」を開催した。医師の立場から診療放射線技師に望むこと、診療放射線技師の立場から読影の補助の進め方、アメリカの大学院教育におけるRadiology Practitioner Assistantの業務紹介などがあり、有意義な議論が交わされた。

第28回日本診療放射線技師学術大会を名古屋国際会議場で開催した。Sala Ubolchai President TSRTによる「Academic Radiological Technology Education and Continuing Education System in Thailand」の招待講演、日本看護協会坂本すが会長による「チーム医療について」の招待講演や市民公開講座「技術と匠の融合」、教育講演、市民公開シンポジウム（東日本大震災への取り組みと今後の対応）、市民公開フォーラム、消化器4団体合同シンポジウム、静脈注射（針刺しを除く）講習会、各種分科会、各種委員会企画、リフレッシュセミナー、フレッシュアップセミナー、早起きセミナー、一般研究発表、示説発表などを実施し、会員の生涯教育に努めた。学術大会開催期間中に読影分科会と放射線治療分科会を設立した。読影分科会は平成22年4月の厚生省医政局通知に基づき委員会活動を行ってきたが、さらに拡大・普及・育成させるため分科会とした。放射線治療分科会は研究教育活動を中心に、医療法第6条に基づく広告のできる認定技師の育成を実施していく方針である。

創立65周年・診療放射線技師法制定60周年ならびに公益社団法人移行の記念式典・祝賀会を、パレスホテルにて開催した。厚生労働省大谷医政局長をはじめ日本医師会・日本画像医療システム工業会・日本放射線技術学会・関連団体の皆さま方に多数ご参加いただき、盛大に開催することができた。また国際医療福祉大学総長矢崎義雄先生による「我が国における医学・医療の挑戦と応戦」の記念講演、47都道府県から推薦された功労者に対する厚生労働大臣表彰が行われた。

第72回定期総会を科学技術館で開催し、本会の名称を新たに「日本診療放射線技師会」とした。「診療」を広辞苑に当たると「診察と治療」という意味が含まれている。私たちは、医師が診察時に必要な画像診断関連検査情報を提供するとともに、高精度放射線関連治療機器を駆使して、質の高いがん放射線治療業務を実施していく必要がある。

平成23年12月に厚生労働省社会保障審議会医療部会で取りまとめられた、診療放射線技師による診療補助の拡大について、全国的な統一講習会を実施した。静脈注射（針刺しを除く）講習会は8地域で開催した。注腸X線検査統一講習会は、東京会場を中心に開催した。平成25年度はさらにきめ細かく対応していくつもりである。

診療報酬改定の検証・改定に向けた調査、読影の補助に関する調査、モニター品質管理に関する調査、医療機器に関するJIRAとの共同調査、給与調査などを実施した。いずれも会員多数の協力により、貴重な資料を得ることができた。

入会促進に向けた新事業として入会促進委員会を立ち上げ、さまざまな方策について検討し実施の準備に入った。

平成24年度は、国民が求めているメディカルスタッフに対する要請に応える事業とともに、診療放射線技師の業務拡大に向けた事業の準備を行ってきた。これからも国民・医療者と協働しながら、質の高い医療を提供していく所存である。会員の皆さまのご支援をお願いする次第である。